

カビの悩み 10000 件を解決してきたプロが教える

カビ取り 対策 方法 究極の

HR
HAEZRICH

ハーツリッチ株式会社



世の中のカビ取り・カビ対策の 90% は間違っている!?

お掃除屋さんにカビ取り依頼したらカビが部屋中に広がってしまった。
カビ取り業者に依頼したのに、すぐ再発してしまった。

目次

はじめに

第1章 カビはこんなに恐ろしい！カビが私たちの生活を壊す

1. カビは危ない生き物
2. なぜカビは生えるのか
3. カビを放置するとどうなる？カビで3000万円の損！？

第2章 カビ対策の極意！間違えたままだと損をする

1. 今やっている対策は8割が間違っている！？
2. 業者の言いなりで100万円損をする！？
3. 個人でカビ取りする場合と業者に依頼する境界線

第3章 究極のカビ取り！専門業者が徹底的に教えます

1. 準備する液剤やカビ取り道具・注意事項
2. 場所別カビ取り方法
 1. お風呂
 2. トイレ・洗面台
 3. 壁
 4. 窓・カーテン
 5. キッチン・冷蔵庫
 6. エアコン
 7. 衣類・バッグ・靴
3. ひどいカビを再発させない5つのポイント

第4章 業者に依頼する際の注意事項

1. カビ取りを検討されている方
2. リフォーム・リノベーションを検討されている方
3. 引っ越しを検討されている方

さいごに

はじめに

日本は高温多湿でカビに好まれやすい気候です。

その為、カビに悩まれている方が多くいます。

きっと今これを読んでいる方の多くは、カビに悩んでいることでしょう。

中には既に様々な方法でカビ取りをしてきた方もいると思います。

ですが、そのやり方本当に正しいですか？

間違えた方法でのカビ取りは悪化させるだけです。

まずはカビとは何かを知りましょう。

そして 4000 件以上施工してきたカビ取り専門業者のハーツクリーンが、正しいやり方を伝授します。

私たちは一人でも多くの人がカビの悩みから解放されることを願っています。

第1章 カビはこんなに恐ろしい！

カビが私たちの生活を壊す

1－1．カビは危ない生き物

「カビを放置していても、見た目が悪いくらいでしょ？」

そう思っている人も中にはいるのではないのでしょうか。

しかし、カビに含まれている毒（カビ毒）は人体に悪影響を与えることがあります。

では、そのカビ毒の恐ろしさを一つずつ見ていきましょう。

マイコトキシン

マイコトキシンとは、カビの身体を構成・維持していく中で、二次産物として作られる物質です。カビ毒＝マイコトキシンと表現することもあります。これは人間にとって非常に有毒な物質で、蓄積によりがんや腎臓障害などを引き起こす恐れがあります。

アレルギー症状

風邪を引いているわけではないのに、咳や鼻水が止まらない、何だか息苦しいと思っていたら、実はカビによるアレルギー症状だったという場合もあります。このような症状の他にも、目のかゆみや湿疹が現れることもあります。

私たちの目では見る事が出来ませんが、空気中にはカビの胞子が飛散しています。この胞子を吸い込むことでアレルギー症状が引き起こされます。



肺炎

ハーツクリーン創業者の父は、トリコスポロンアサヒという見た目では分からないカビにより肺炎を患いました。

難病指定されている病気であるため、一度罹ってしまうと治りません。

その肺炎が進行し繊維状になる病気となり、発症から5年後に亡くなりました。

古くからある日本家屋は、冬になると室内にいるのに凍えるほど寒いということがありました。しかし最近は高気密高断熱住宅が増え、冬でも快適に過ごすことができます。それはとても良いことなのですが、空気の流れが滞って湿気がこもりやすくなり、結露やカビを発生させやすいというデメリットもあります。

1980年代には男女ともに長寿全国一位だった沖縄県が、2015年には女性7位、男性は36位にまで後退するという事態が起こりました。

首都大学東京の星旦二名誉教授によると、原因は慢性肺疾患で、これは喫煙とカビが原因だと考えられています。

沖縄は日本の中でも高温多湿でカビが生えやすい地域です。それに加えて高気密高断熱住宅が増え、更にカビが発生しやすくなっていると考えられるのです。

当社が一般的な住宅で1㎡あたりカビ数（cfu＝コロニーとして検出された数）を計測したところ、平均して200cfu/㎡でした。個人差はありますが人間は1日13000ℓの空気を吸っているので、200cfu/㎡の住宅で生活していると1日で約2600cfu、1年間で約95万cfuのカビを吸い込むことになります。

しかし当社がカビ取りを行った住宅では5000cfu/㎡を超えることが多くあります。

もし仮に5000cfu/㎡の住宅に住んでいたら、1日で約65000cfu、1年間で約2373万cfuのカビを吸い込んでいることになるのです。

カビが生えている家は、一般の住宅の25倍のカビが浮遊している。つまりカビによる病気のリスクも25倍に上がります。

カビは“ただの汚れ”ではありません。私たちの生活を壊し、命さえも脅かす恐ろしい存在です。

まずはその事実を認識することが、カビから解放される第一歩になるでしょう。

1－2. なぜカビは生えるのか

カビはある条件が揃った場所に生えるという特徴があります。

発生を防ぐために、まずはカビが好む環境について知っていきましょう。

- ・湿度が60%以上
- ・室温が20℃以上
- ・ホコリなどの栄養がある
- ・風通しが悪い

カビの種類によっては低温でも生えるものなどもありますが、一番生えやすいのはこの条件が揃った時です。

そしてその条件が揃うのが梅雨。雨が多く、部屋の中までジメジメしてしまうこの時期は、カビが繁殖しやすいのです。

しかしこの条件、実は室内においては冬でも当てはまることがあります。冬場は暖房器具を使用するため、部屋の中も暖かくなっています。それにより外気と室内の気温差が大きくなって、結露が発生しやすくなります。

更に窓を全開にすることも少なく、風通しが悪くなります。そのため冬であってもカビにとっての好条件が揃ってしまうのです。



またカビは虫の死骸、皮脂など様々なものを栄養源として繁殖していきます。

掃除を怠っている部屋はカビの大好物です。

湿度を下げて、風通しをよくし、こまめに掃除をする。

それがカビを遠ざける最善の方法です。

1－3. カビを放置するとどうなる？

カビで3000万円の損！？

もしカビが生えてそのまま放置するとどうなってしまうのでしょうか？
事例も交えて見ていきましょう。

体調不良

「1－1. カビは危ない生き物」でもお伝えした通り、カビが原因で病気を発症することがあります。

- ・アレルギー性鼻炎
- ・過敏性肺炎
- ・気管支肺アスペルギルス症
- ・シックハウス症候群（シックビル症候群）

など、様々な病気を引き起こします。
一度罹ると治らない病気もあり、最悪なケースだと死に至ることもあります。

莫大な料金の発生

カビによる被害は健康被害だけではありません。建物の寿命を縮めてしまうこともあります。

業者に相談した時には既にカビの被害が進行していて、カビ取り代だけではなく、数百万円規模のリフォーム代が必要になってしまった…なんてこともあります。

過去にあった事例では、知人から預かった絵画を飾ったことでのカビの被害です。
実はその絵画にはカビが生えていて、それが原因となって飾っていた場所から家全体にカビが広がってしまいました。

あまりにも広がりすぎてしまった。
臭いも気になる。
再発リスクが怖い。

その方はこれらのことを総合的に考えて、カビを根絶するためにリフォームを選択しました。

家具や壁、空調設備などを全て取り払ったスケルトン状態にするという大規模なリフォーム。

一枚の絵画からカビが広がり大規模なリフォームに発展する。少しのカビでも絶対に侮ってはいけないと、改めてカビの恐ろしさを考えさせられる現場でした。



また、ハーツクリーンでは呼吸器内科の先生方から紹介いただき、過敏性肺炎の患者様の家を除菌することがあります。このカビはどこに発生しているのか目視で判断するのは難しく、リフォームも含めて徹底的に除菌します。しかし、それでも改善できなかった場合はすべての家財を捨て、引っ越しせざるを得ないケースも少なくありません。

何十年と住んでいた家と離れ、親しい友人とも離れ、たくさんの思い出が詰まった家具なども新しい家に持っていけないという辛い経験をするようになります。

また、カビが発生した家は次の方に貸し出すのも大変ですし、築年数が古くなっていて売るにも売れないケースも多々あります。その為、住んでいた家を取り壊し、家具もすべて処分し、引っ越しをした方もいらっしゃいました。

その際、ハーツクリーンが次の物件探しや引っ越し先のリフォーム等トータル的にサポートさせていただきましたが、すべて含めて3000万円程度の費用が掛かってしまいました。

第2章 カビ対策の極意！

間違えたままだと損をする

2-1. 今やっている対策は8割が間違っている！？

カビの発生を防ぐために日常的に対策をとっている方もいると思います。

しかしその対処方法を多くの方が間違えています。しかも個人の方だけでなく、リフォーム業者や清掃業者でさえも。

ここでは特に間違っている代表的な事例を紹介していきます。

掃除機をかける

カビ対策として、掃除をすることはとても大事です。

しかし、カビが発生している箇所を掃除機で吸い込んでしまうと、フィルターから微細なカビが通り抜け、排気口から部屋中へ撒き散らすことになってしまいます。



青かびは表面に付着しているケースがある

為、掃除機で吸うと一時的にカビ見えなくなることがあります。

過去に築1年の新築住宅で清掃業者が掃除機でカビを吸い、大問題になったことがありました。

具体的には、床下の木部にカビが発生していたため、建築した建設業者に相談したところすぐ清掃業者を手配してくれました。その時に清掃業者が行った対処というのが普通の掃除機で青かびを吸うというものでした。

その瞬間からカビは部屋中を舞い、タイミング悪く梅雨の時期だったこともあって、清掃業者が行ってから1か月後には部屋中至る所に青かびが発生してしまったということがありました。

水拭きをする

青かびや白カビの場合は、水拭きをするだけで表面のカビを取り除くことが出来るため、正しいように思うかもしれません。しかしこれは表面のカビを取り除いただけで、水拭きをしてもカビの根は残ってしまっているため、すぐ増殖してしまいます。特に水はカビの必須栄養素の一つなので成長を促してしまう恐れがあり、更にカビの胞子を引き延ばして被害を大きくしてしまう恐れがあります。



除菌をせず換気扇やエアコンをつける

換気扇やエアコンは、管理をするうえでは正解になりますが、除菌をする前に行うことはNGです。これではカビをまき散らしているのと変わりません。一度カビが発生してしまうと、除菌しない限り無くなることはありません。一度カビが発生した場合は、完全にカビを除去してから、換気扇やエアコンをつけ再発防止するのが正しい管理方法になります。



カビが発生した際に窓をあける

これは換気扇やエアコンと同じ理由で、まき散らしてしまうからです。また、天気がいい日に窓を開けると殺菌されていいのですが、大雨が降った後の天気がいい日は、湿気が高くなり窓を開けっぱなしにするとカビが発生しやすい環境になります。



とはいえ、カビを除去する時には必ず換気が必要となるので、カビが舞い散らないように少し離れた窓を開けるなど工夫してください。

中途半端なカビ取りを行う

こちらは、一般的なカビ取り業者も間違えることですが、目に見える範囲のみカビ取りを行っても、目視できていない孢子が部屋中に飛び散っている可能性があります。

プロの業者は、専用の機械を使いながら、どこまでカビ取りをするべきなのかを決めていきますが、基本的には空間単位（部屋全体）で除菌するのが正しいカビ取りになります。また、除菌と言っても医療用の滅菌ではない為多少残りますし、浮遊菌が付着して再発する危険性があります。そのため、防カビまでセットで行うことで再発するリスクを下げる事が出来ます。

2-2. 業者の言いなりで100万円損をする！？

知識・技術力のない業者に依頼してしまうと、施工後カビが再発することがあります。専門知識がほとんどなく、使う薬剤も適当な業者が意外といえるのです。ここでは知識不足が招いた悲劇の事例と、そのような事態にならないようにする方法をご紹介します。

カビの上に塗装をして壁一面にカビが広がった

カビ取りの知識が充分でないリフォーム業者に問い合わせをしまい、「カビの上からペンキを塗り重ねれば大丈夫」という説明を受け入れ、そのままリフォームを依頼。しかしその後再び壁にカビが発生。その時にはリフォーム前よりもカビが広がっていたため、結局費用が膨大に掛かってしまったというケースがあります。



塗装の場合は、根本的に解決するにはボードの交換か、躯体であれば完全剥離する必要があります。そのため、余計に時間と費用が掛かってしまいます。

壁紙のみの貼り替えでカビが再発

壁にカビが生えてしまったが「壁紙を貼り替えたなら大丈夫でしょう」とカビ取りをしっかりしないまま、壁紙の張り替え工事だけを実施。しかし、数ヶ月後カビの除菌が充分ではなかったため再発してしまったというケースもありました。

せっかく壁紙を張り替えても、カビがしっかりと除菌されていないと壁紙の裏からカビが広がり、再度壁紙を剥がして除菌しなければならなくなることがあります。

この原因は、壁紙の糊を餌にしてカビが増殖するためです。防カビ用の糊を使っていると言っても意味がなく、一度発生してしまったカビは、防カビでは抑えることがなかなか出来ません。



知識や技術のない業者に依頼すると、このような事態になりかねません。信頼できるカビ取り業者に依頼したいとお考えでしたら、問合せや無料カウンセリングの時に「カビに関する質問」をたくさん投げかけてみてください。

- ・納得できる説明を丁寧にしてくれる
- ・専門知識が豊富である
- ・具体的な提案をしてくれる

この3つのポイントに注意しながら業者の返答を聞けば、知識のない業者と信頼できる業者を見分けられると思います。

2－3. 個人でカビ取りする場合と業者に依頼する境界線

「カビ取り業者に依頼した方がいいのはわかっている。でもお金がかかるし…」

そう考える気持ち、とてもよくわかります。

出来ることならあまりお金を掛けずにカビを除去したいと思います。

では、個人でできる場合と業者に依頼した方がよい場合を見てみましょう。

業者に依頼した方がよいパターン

- ☐ 壁や天井など手の届かない箇所や危ない場所
- ☐ 範囲が広い（1㎡以上）
- ☐ 根本的にカビの除去をしたい
- ☐ 体調不良などで自分では除去できない



できれば壁や天井のカビ取りは業者に依頼した方がいいと思います。

壁や天井に生えたカビを市販のカビ取り剤で除去すると、建材の変色や素材の劣化を起こしやすかったり、余計な薬剤が残ってしまい、その成分が体に悪影響を及ぼす可能性があるからです

特に壁紙では、

- ☐ 壁紙がめくれている
- ☐ 壁が膨らんでいる
- ☐ 常に濡れている



これが当てはまる場合は要注意です。

壁紙や塗料の奥までカビが侵食している可能性が非常に高いです。

個人で解決することは難しいため、カビと建築の知識を併せ持った業者に依頼するしかありません。

一般の塗装業者やクロス業者に依頼すると、市販のカビ取り剤で軽く除カビしただけで、クロスは貼ったり塗装したりする業者が多くいます。

塗装や壁紙の裏にカビが発生しているままだと早ければ数ヶ月で再発します。

少し手間はかかったとしても一度しっかりとしたカビ取りを行うことで、無駄な施工費がかからずトータルのコストを大きく下げることが出来ます。

個人でカビ取りができるパターン

☐ 洗い流すことが出来る箇所の場合

☐ 手の届く箇所の場合

☐ 範囲が狭い場合

お風呂など除カビした後に洗い流すことが出来る場所、ゴムパッキンなど小面積の場合は、個人でカビ取りをしてもいいと思います。



第3章 究極のカビ取り！

専門業者が徹底的に教えます

3－1．準備する液剤やカビ取り道具・注意事項

実際にカビ取りをする前に、準備するものを見ていきましょう。

液剤

ホームセンターやドラッグストアなど、手軽に用意できるものの場合は以下のものになります。

- ・市販のカビ取り剤
- ・酸素系漂白剤
- ・消毒用アルコール
- ・重曹
- ・中性洗剤（お風呂用・台所用・洗濯用など用途に応じて）

こちらの液剤があれば、ほとんどの場所でカビ取りを行うことができます。

ただし、一般的に販売されているカビ取り剤は、水酸化ナトリウムという物質が含まれています。

この物質は乾燥後も残り続けて、強いアルカリ性の性質を持ちます。皮膚を溶かす作用があるので、使用の際はゴム手袋を着用し保護するなど、注意が必要です。

小さなお子様やペットが居て、市販のカビ取り剤の使用に不安がある方は、ハーツクリーンが販売しているカビ取りマイスターの使用をご検討ください。

こちらは、特許出願中のプロが使うカビ取り剤と防カビ剤がセットになっています。

カビ取りマイスターは、乾燥後は塩になる液剤なので個人でも安心してカビ取りを行うことができます。



[カビ取りマイスターキット \(kabitori-meister.com\)](http://kabitori-meister.com)

道具

- ・雑巾・布巾・タオルなど
- ・スポンジ
- ・使い捨ての歯ブラシ
- ・ラップ
- ・キッチンペーパー

大体の場所はこの道具でカビ取りが可能です。

一部の場所ではこれ以外にも必要な道具が出てくるので、詳細は「3－2. 場所別カビ取り方法」でその都度ご紹介していきます。

必ず身に着けるもの

- ・長袖
- ・ゴム手袋
- ・マスク
- ・ゴーグル

カビ取り剤が皮膚や粘膜に付着しないように、ゴーグルやマスク、ゴム手袋などで保護してください。

マスクはなるべく、作業用のものがおすすめです。

どの場所のカビ取りを行う場合でも、このような格好を心がけてください。



【注意事項】換気は必ず行う

カビ取り剤は塩素ガスを発生するものもあり、吸い込むと気分が悪くなることがあります。またカビ自体もマイコトキシンという毒素を排出しているので、吸い込むことで体調が悪くなる可能性もあります。

すべての窓を開けて、換気扇を必ず回すようにしてください。

また10～15分おきに休憩を取りながらカビ取りを行ってください



3－2．場所別カビ取り方法

1．お風呂

カビの悩みで最も多いのがお風呂場です。

皆さんが知りたいカビ取り方法と、カビの再発を防ぐ方法をご紹介します。

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・お風呂用の洗剤
- ・スポンジ
- ・歯ブラシ
- ・ラップ
- ・風呂用の伸縮スポンジ（フローリングワイパーと雑巾で代用も可）
- ・ジェルタイプのカビ取り剤（ゴムパッキンのカビがひどい場合使用）

天井

カビは天井の四隅から発生しやすく、また重力に伴いカビは胞子を上から下に落下させる為、風呂の天井のカビ取りはとても重要です。

- ① 風呂用の伸縮スポンジを使用してカビ取り剤を天井に塗布する。

（直接天井にカビ取り剤を吹きかけると落下して危険です）

- ② 10分ほど放置。

（放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください）

- ③ 伸縮スポンジでしっかりと水拭きをする。



バスタブ

- ① お風呂用の洗剤でバスタブ内の水アカや汚れを落とす。
- ② カビ取り剤をまんべんなく吹きかけて、１０～１５分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ③ カビ取り剤をシャワーで洗い流す。



風呂床や排水溝

お風呂の床は湿気が非常にたまりやすくカビやすいスポットです。

- ① お風呂用の洗剤で床や排水溝の汚れを落とす。
- ② カビ取り剤をまんべんなく吹きかけて、１０分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ③ カビ取り剤をシャワーで洗い流す。



風呂のフタ

- ① カビ取り剤を塗布する。パッキン部分のカビがひどい場合は、上からラップをする。
(もしくはジェルタイプのカビ取り剤を使用する)
- ② １０分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ③ カビ取り剤をシャワーで洗い流す。



エプロン

取り外す手間がありますが、お風呂場がカビ臭い場合には浴槽のエプロンにカビが発生している可能性があります。

- ① カビ取り剤をまんべんなく吹きかけて、１０～３０分ほど放置。
（放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください）
- ② カビ取り剤をシャワーで洗い流す。



普段、なかなか掃除ができない場所だからこそ、これだけでかなりキレイになります。

ゴムパッキン

ドア付近のゴムパッキンはカビが生えやすいので、しっかり除去しましょう。

- ① カビ取り剤を吹きかけ、上からラップをする。
（もしくはジェルタイプのカビ取り剤を使用する）
- ② １０～３０分ほど放置。
（放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください）
- ③ カビ取り剤をシャワーで洗い流す。



以上でお風呂のカビの除去は終了です。

お風呂は年中通して高温多湿なため、再びカビが発生する可能性が高い場所です。
そのため、カビが生えないように対策をすることが大切です。
ちょっとしたことなので、毎日以下のことを心がけてください

浴室のカビ対策！6つのポイント

① 24時間換気する

特に使用後の浴室は、湿度も温度も上がっています。そのため換気扇を回して、湿度・温度の上昇を抑えるようにしてください。

ただし浴室のドアを開けて換気することはお勧めしません。何故なら脱衣所の湿度が上がって、カビが生えやすくなるからです。



② お湯をかける

カビは熱湯に弱いという性質があります。

お風呂上りにシャワーで50℃のお湯を10分ほど浴室の壁や床にかけることで、カビの繁殖を抑えることができます。また、石鹸カスも同時に流すことができるので、カビにとっての栄養素を同時に除去することができます。

③ 床に直置きしない

洗面器、シャンプーボトル、椅子など直接床に置かないようにしてください。

浴室用ラックなどに乗せるようにして、洗面器やボトルの底の風通しを良くし、水分や石鹸カスも溜まらないようにしてください。



④ 浴槽にお湯を入れっぱなしにしない

湿度が上昇してしまい、更にカビが生えやすい環境を整えてしまうことになります。カビ予防の観点からは、浴槽から出たらすぐにお湯を捨てるようにしてください。

しかし、防災目的などで「どうしても浴槽にお湯を残しておきたい」という方もいます。その場合は必ずフタをするようにしてください。

⑤ 水気を拭き取る

水気があることによって、湿度が高くなりジメジメしてしまいます。タオルで壁や床、浴槽の水分をよく拭き取るようにしてください。

普通のタオルよりも、吸水性の高いマイクロファイバータオルの方がオススメです。

⑥ 石鹸カスはきちんと洗い流す

石鹸カスはカビにとっての栄養素になってしまいます。またぬめりの原因にもなってしまいますので、見つけた際にはすぐにシャワーで洗い流し、水分を残さないためにタオルで水分を拭き取るようにしましょう。



2. トイレ・洗面台

お風呂と同様に湿気が多く、カビが生えやすい場所です。

壁のカビ取りに関しては、次の「3-3. 壁」にて記述しますので、それ以外の場所のカビ取り方法をご紹介します。

トイレ

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・バケツ

便器

- ① 便器内の黒ずみにカビ取り剤を吹きかける。

（便器のふちの裏側は、見落としがちなポイントです。ココにもカビ取り剤をしっかりと吹きかけるようにしましょう）

- ② 15分～30分ほど放置する。

（放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください）

- ③ レバーで水を流す。

便座の方にカビ取り剤が飛んでいることもありますので、使い捨ての紙などで綺麗にふき取ってください。



トイレのタンク

トイレのカビ取りを行っても、まだカビ臭さが気になる場合「タンク内」にカビが生えている可能性があります。その場合は、タンクの上蓋を取り外して内部もカビ除菌すると良いでしょう。

1～2ヶ月に1回程度は掃除することをおすすめします。



- ① タンクの上蓋を外す。
- ② カビの部分だけでなく、まんべんなくカビ取り剤を吹きかける。
- ③ 15分～30分ほど放置する。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ④ バケツに水道水を入れて、上からカビ取り剤を吹きかけた部分に流す。
その後、レバーを押してさらに水を流し、カビ取り剤を洗い流す。
(カビ取り剤が飛び散る恐れがあるので、タンクに顔を近づけないようにしてください)

引用：<https://kabipedia.com/1380>

洗面台

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・雑巾
- ・ラップ
- ・歯ブラシ



- ① カビ取り剤を吹きかける
- ② その上からラップをかけて5～10分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ③ ラップを取り、水で薬剤を流す。もしくは濡らした雑巾で拭き取る。

細かい部分のカビ汚れは歯ブラシで掻き出してください。

3. 壁

「2－3. 個人でカビ取りする場合と業者に依頼する境界線」でもお伝えした通り、壁や天井は専門業者に依頼することをお勧めします。

しかし、まだ範囲が狭く他のところにカビが広がっていない場合で、最後に水拭きがしっ
かりできる壁であれば個人でのカビ取りも可能です。

市販のカビ取り剤は脱色することもあるので、まずは目立たない場所で試してください。
脱色しないことを確認した後は、カビ取り剤を塗布していきます。ここでの注意点は2つ
です。

- ・擦らないこと
- ・周辺もカビ取りを行うこと

擦ると表面が傷つき、傷の中にカビが入り込むと再発時に余計除去しづらくなります。
周辺のカビ取りも行う理由は、胞子が飛び散っているケースが多く、目で見て分かるカビ
から50cm～1m程度は周辺も除カビすることが重要だからです。

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・雑巾
- ・キッチンペーパー

では実際のカビ取り方法を見ていきましょう。

壁の種類によって方法も異なるので、一つずつ紹介していきます。

壁紙（クロス）

壁紙は基本的にビニールクロスが使われて
いることが多いです。

布クロス・紙クロスを使っている場合は、
脱色するため、市販のカビ取り剤を使うこ
とが出来ません。

- ① カビ取り剤を吹きかける。



② カビの色が無くなるまで放置。

(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)

③ カビ取り剤が残らないように水をしみこませた雑巾で何度も拭く。

④ 2～3時間程かけてしっかり乾燥させてください。

※吹きかけてもカビが取れない場合は、キッチンペーパーでラップをすると綺麗に取れます。

コンクリート壁

① カビ取り剤を吹きかける。

② カビの色が無くなるまで放置。

(放置時間は種類により異なります。
カビ取り剤の裏面をご確認ください。)

③ カビ取り剤が残らないように水をしみこませた雑巾で何度も拭く。

④ 2～3時間程かけてしっかり乾燥させてください。



※吹きかけてもカビが取れない場合は、キッチンペーパーでラップをすると綺麗に取れます。

壁は他にもボード壁、塗装壁、砂壁、珪藻土など様々な種類があります。

しかしそれらの壁は水に弱い性質だったりして、最後にカビ取り剤を水拭きすることができません。そのため市販のカビ取り剤を使ってカビ取りを行うと、薬剤が残ってしまいその成分が体に悪影響を及ぼす可能性があります。

ビニールクロスやコンクリート壁以外のカビ取りをしたい場合は、専門業者へ依頼することをお勧めします。

もしそれでも自力で行いたいということでしたら、ハーツクリーンが販売しているカビ取りマイスターを使用してください。

乾燥後は塩になる液剤なので安心して壁にも使用できます。

下記のサイトで使い方の動画も視聴できるので、初めての方も安心してご使用いただけます。

[カビ取りマイスターキット \(kabori-meister.com\)](http://kabori-meister.com)

Kabori Meister
カビ取りマイスターキット

MANUAL
使い方マニュアル動画



4. 窓・カーテン

冬の時期は外と室内の気温差が大きくなり、窓が結露することがよくあります。ここではカビの取り方法だけでなく、窓ガラスの結露を防ぐ方法も紹介していきます。

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・消毒用アルコール
- ・雑巾
- ・いらない歯ブラシ、綿棒、爪楊枝
- ・ラップ

窓のサッシレール

- ① レール部分の砂埃などの汚れを雑巾でふく。
(こまかい部分にはいらなくなった歯ブラシ、綿棒、爪楊枝などを使用してください)
- ② 消毒用アルコールを吹きかける。
- ③ 雑巾で水気を拭き取る。



掃除と消毒を一気にできる方法なので、カビ予防におすすめです。

窓ガラスのゴムパッキン

- ① 雑巾で拭いて汚れを取り除く。
- ② 市販のカビ取り剤を吹きかけた後に、ラップをかける。
(カビがひどい場合には、ジェルタイプのカビ取り剤をおすすめします)
- ③ 10分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ④ 固く絞った濡れ雑巾で拭き取る。



もしこの方法でカビが落ちない場合には③の放置時間を少し長めにするか、①～④の工程を複数回くり返すことによってカビが落ちることがあります。

カーテン

カーテンのカビは普通に洗濯しただけでは取れないことが多いので、酸素系漂白剤の粉末タイプを使用することをおすすめします。

酸素系漂白剤には粉末タイプと液体タイプがあります。

粉末タイプは弱アルカリ性で、液体タイプは酸性または弱酸性です。

カビはアルカリ性が苦手なので、カビが生えてしまったときには粉末タイプの出番です。しかし、ウールやシルクなどの繊維はアルカリ性に弱いいため粉末タイプは使用できません。それらの素材には液体タイプを使用してください。

<用意するもの>

- ・ 酸素系漂白剤
- ・ 洗濯ネット

- ① カーテンはフックから外して洗濯ネットに入れる。
- ② 洗濯機に漂白剤を入れ、ぬるま湯で30分つけ置き。
- ③ 洗濯のコースが選べる場合には手洗いモードなどの生地にやさしいモードを選択。



- ④ 脱水でカーテンが傷んでしまうことがあるのでレースカーテンは30秒ほど、普通のカーテンでも1分程度で止める。
- ⑤ 綺麗になったカーテンを干してしっかりと乾燥させる。

もしもまだカビが落ちない場合には、つけ置き時間を少し長くしてもう一度同じ手順で洗濯をしてください。

生地が傷んでしまわないようにつけ置きは長くても2時間以上は浸さないようにしましょう。

窓の結露を防ぐ方法

ここまで窓周辺のカビ取り方法をお教えしてきましたが、一番大事なのはカビを生やさないことです。そのためには結露を防ぐことが最善です。

そこで、手軽に結露を防止できるアイテムをご紹介します。

① 結露防止断熱シート

窓ガラスに結露防止シートを貼っておくのが有効です。

内部に空気を含んでおり、このシートを窓ガラスに貼ることで断熱します。

そのため冷暖房効果をアップさせることができるというメリットもあります。

このシートを貼っておくと結露することがなくなるので、カビの発生を防ぐことができます。



② 結露防止スプレー

結露防止スプレーは室内側の窓ガラスに塗り、撥水効果により結露の水滴を小さく抑え、水だれを防いでくれるアイテムです。結露防止断熱シートよりもお手軽に行うことができます。



そして結露を防ぐには換気が大事です。
これらのアイテムを使用し、定期的に換気することでカビの発生を防ぎましょう。

5. キッチン・冷蔵庫

キッチンはカビが生えやすい場所の1つです。毎日口にするものを扱う場所なので、常にカビのない綺麗なキッチンを心がけましょう。

<用意するもの>

- ・塩素系のカビ取り剤
- ・酸素系漂白剤
- ・アルコール
- ・布・ふきん
- ・洗い桶 or バケツ

シンク・排水溝

- ① 塩素系カビ取り剤を吹きかける。
- ② 5～10分ほど放置。
(放置時間は種類により異なります。カビ取り剤の裏面をご確認ください)
- ③ 水でカビ取り剤を洗い流す。



食器類

- ① 酸素系漂白剤をお湯に溶かした中に食器を漬け置きする。
- ② 20～30分ほど放置する。
- ③ 水で漂白剤を洗い流す。
- ④ そのままいつも通り食器を洗う。

もし食器棚にもカビが生えているなら、こちらを除去しないと再び食器にカビが生えてしまいます。

消毒用アルコールを吹きかけて時間を置いてから、乾いた布でふき取りましょう。

冷蔵庫

- ① 冷蔵庫の中にある食品を全て取り出す。
- ② 取り外せる部品は全て洗って乾燥させる。
- ③ 消毒用アルコールを吹きかけて除菌する。カビが生えて色素が沈着している場合は酸素系漂白剤を使用する。
- ④ 固く絞ったふきんで、しっかりとふき取る。
- ⑤ 乾くまで20分～30分ほど待ってからパーツと食材を元に戻す。



これでカビの除去だけでなく、冷蔵庫の気になるニオイもスッキリするでしょう。

6. エアコン

エアコンは結露とホコリにより内部でカビが発生していることがあります。
もしその状態でエアコンを作動すると、空気中にカビを撒き散らしてしまいます。
正しいお手入れをして、カビの繁殖を予防しましょう。

<用意するもの>

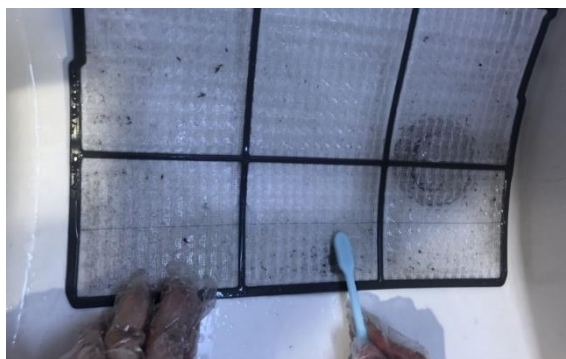
- ・ 中性洗剤
- ・ スポンジ
- ・ 雑巾
- ・ 歯ブラシ
- ・ 脚立
- ・ 新聞紙
- ・ ハンディクリーナー

- ① エアコンの電源を切る。電源プラグも抜いておく。
- ② 床に新聞を敷き、脚立を設置する。
- ③ 脚立に上ってエアコンの正面のカバーを取り外す。

(両脇を持つと外れる機種が多いようです。詳しくは使用しているエアコンの説明書をご確認ください)



- ④ フィルターを取り外し、新聞の上に置く。
- ⑤ ハンディクリーナーを使ってエアコン内部の埃を吸い出す。
ハンディクリーナーが無い場合は、掃除用のブラシなどで代用。ただし、ブラシの毛が混入したり、埃を舞い上げてエアコンの奥部分に入れてしまわないよう、優しい力で行う。
- ⑥ スポンジに薄めた中性洗剤を含ませ、フィルターを洗う。
細かい部分は歯ブラシを使用する。



- ⑦ ぬるま湯でしっかりすすぎ、陰干しして乾かす。
- ⑧ 雑巾を水で湿らせて、固く絞り、送風口やフィルターの周辺部分など、目に見える場所を拭く。
その際、機械の奥の方まで無理に手を差し込まないように注意する。エアコンの上部やコンセント周辺なども忘れずに拭く。
- ⑨ フィルターが完全に乾いたら、エアコンに装着してカバーを元に戻す。

フィルターを湿った状態のままエアコンに装着しないよう、くれぐれも注意してください。

7. 衣類・バッグ・靴

クローゼットや下駄箱の中に長い間しまっていると、いざ使おうとした時にカビだらけになっていたというケースはよくあります。

大事な洋服はクリーニングに出すことをお勧めしますが、自宅で洗濯できる素材のものや、どうしても時間がなくて応急処置としてする際の対処のやり方をご紹介します。

衣類

<用意するもの>

- ・酸素系漂白剤
- ・消毒用アルコール
- ・衣類用ブラシ

アルコールを使用する方法

軽いカビであれば、アルコール使用することにより除去できます。

ただし、革製品は変色する恐れがあるので使用しないようにしましょう。

このほか素材が分からないものは、目立たない部分で試して様子を見てから消毒用アルコールを使うようにしてください。

- ① 衣類用のブラシで軽くブラッシングをする。
- ② 消毒用アルコールを吹きかける。
- ③ 天気の良い日に直射日光に当て乾かす。



もしこのやり方でカビが取れない場合は、漂白剤を使用しましょう。

酸素系漂白剤を使用する方法

塩素系の物を使用すると色落ちや繊維のほつれが生じる場合があるので、酸素系の物を選んでください。

また素材によっては酸素系漂白剤でも痛むものがあるので、必ず洗濯表示を確認してください。

- ① 40℃程度のお湯に規定量の漂白剤を入れて薄める。
- ② 衣類を30分ほどつけ置きする。
- ③ 揉み洗いする。
- ④ 普段通り洗濯し、しっかり干す。



革製のバッグ

一番カビやすいといわれる革製。少し手間はかかりますがお気に入りの長く使うためにはこの方法がおすすめです。

<用意するもの>

- ・重曹
- ・タオル
- ・革製品の保護クリーム
- ・乾いた革用の布巾（もしくは乾いたタオル）



- ① 水100ccに重曹小さじ1を入れて重曹水を作る。
- ② タオルに重曹水を染み込ませ、カビの発生している箇所を優しくふき取る。
- ③ 天日干しにして乾かす。
太陽光は殺菌能力に優れているためカビの殺菌や除菌に効果的です。
- ④ 革製品用の保護クリームがあれば全体塗り、乾いた布で軽く拭いてから収納する。

ナイロン製・布製のバッグ

アルコールを使用する方法

<用意するもの>

- ・消毒用アルコール
- ・濡れタオル
- ・中性洗剤



- ① カバンに消毒用アルコールを吹きかけ、濡れタオルで優しくこするようにしてカビを落とす。
- ② 中性洗剤を使い、手洗いコースで洗濯機にかける。
- ③ 洗濯後は内側まで完全に乾くよう天日干しする。

酸素系漂白剤を使用する方法

カビの程度がひどい場合にはこちらがおすすめです。

<用意するもの>

- ・酸素系漂白剤
- ・カバンが入るバケツまたは容器
- ・スポンジ
- ・中性洗剤

- ① カバンが入るバケツまたは容器にぬるま湯（50℃程度）をため、酸素系漂白剤を入れてよく混ぜる。
- ② その中にカバンを入れ、1～2時間程度浸け置きする。
（手荒れ防止のため作業はゴム手袋をはめてください）
- ③ 時間が経ったら漂白液から取り出し、カビが残っているようであればスポンジで優しくこすり落とす。
- ④ 中性洗剤を使い、手洗いコースで洗濯機にかける。
- ⑤ 洗濯後は天日干しして完全に乾かす。

生地を傷めてしまうのが心配であれば手洗いでもOKです。洗濯機を使用する場合でも生地が傷まないよう脱水は1分程度にしましょう。

革靴

革素材は非常にデリケートなため、脱色や損傷が起きないように配慮が必要です。
また、使用するクリーナーやスプレーによって手順が異なる場合もあるので、作業する前に使用方法をよく読んでおきましょう。

<用意するもの>

- ・重曹
- ・消毒用アルコール
- ・革靴用クリーナー
- ・革靴用クリーム
- ・靴用の撥水スプレー

- ① 靴紐があれば外しておく。
- ② 乾いた布でやさしくカビを拭き取る。
- ③ 別の布を濡らして固く絞り、重曹をつけて拭く。
- ④ 消毒用アルコールを吹きかける。
- ⑤ 風通しの良い日陰でよく乾燥させる。
- ⑥ 革靴用クリーナーを布に適量つけて、全体の汚れなどを拭く。
- ⑦ 革靴用クリームでやさしく磨いていく。
- ⑧ カビ予防のため靴用の撥水スプレーを吹きかけてよく乾かす。



スエードの靴

<用意するもの>

- ・靴用のやわらかいブラシ
- ・消毒用アルコール
- ・靴用の撥水スプレー

- ① 靴紐があれば外しておく。
- ② カビをブラシでやさしく落としていく。(ブラシも除菌する)
- ③ 消毒用アルコールを吹きかける。
- ④ 風通しの良い日陰でよく乾かす。
- ⑤ 毛羽立ってしまったたり、固くなってしまった部分をやさしくブラッシングする。
- ⑥ カビ予防のため靴用の撥水スプレーを吹きかけてよく乾かす。

スニーカー

<用意するもの>

- ・漂白剤（または重曹）
- ・中性洗剤
- ・靴が入る大きさのバケツ or 桶
- ・大きなタオル

色付きのスニーカーで漂白剤を使うのが不安であれば、代わりに重曹を使用してください。

- ① 靴紐があれば外しておく。
- ② 洗濯用の中性洗剤でスニーカーの全体を洗い、泡立ちが無くなるまですすぐ。
- ③ バケツか桶に 50℃くらいの熱いお湯を張り、適量の漂白剤を混ぜる。
- ④ 漂白液の中にスニーカーを入れ、2時間ほど漬け置きする。



- ⑤ よくすすぎ、大きなタオルでくるんで洗濯機で脱水をかける。
- ⑥ 風通しの良い日陰でよく乾かす。
- ⑦ カビ予防のために靴用の撥水スプレーを吹きかける。

ガス殺菌

衣類や小物は素材によってカビを除去するのが難しいため、業者に依頼してガス滅菌をするという方法もあります。

ハーツクリーンでは、日本で唯一の家具・衣類・小物類専用のガス殺菌庫を用いる事で、通常では除去しきれないカビを完全に除去しています。

これなら大事な衣類やバッグを傷つける心配がありません。

数が多い、個人では難しいなどありましたら、このようなサービスもご検討ください。



[ガス殺菌サービス | ハーツクリーン | 除カビ・防カビの専門会社 \(haezclean.com\)](https://haezclean.com)

3-3. ひどいカビを再発させない5つのポイント

ここまでカビを除去する方法を詳しくお教えしてきました。
しかしカビ対策で一番大事なのはカビを発生させないことです。
そのために5つのポイントをここでご紹介します。

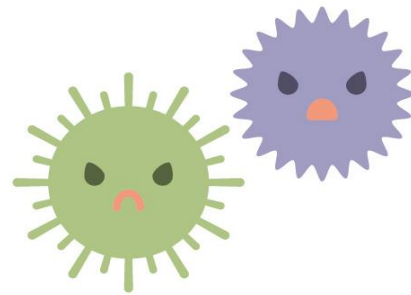
- ・カビの栄養源を絶つ
- ・湿度を下げる
- ・結露を防ぐ
- ・家具の配置を工夫して通気よくする
- ・カビを根本までしっかり除去する

それでは一つ一つ詳しく見ていきましょう。

カビの栄養源を絶つ

カビが増殖する条件の1つとして「カビのエサ（栄養）」があるということが挙げられます。その為、カビの栄養源を徹底的に絶つことが重要です。

カビの栄養となる、ホコリやダニの死骸、
皮脂などカビの栄養源となるものを無く
す。
つまり「こまめな掃除」が大事です。



しかし毎日仕事が忙しくて掃除の時間なん
て取れないという方も多いと思います。

徹底的に掃除をするということをしなくても、ホコリが落ちていることに気付いたらすぐ
に取り除く、お風呂の最後にシャンプーやリンスの石鹸カスを取り除くなど、小さなこと
を積み重ねていきましょう。

湿度を下げる

カビ対策で非常に大事な湿度対策ですが、おうちで出来る方法をご紹介します。

① 除湿機を置く

湿度管理において非常に便利なものです。天井や壁にカビを生やしたくない場合は、機能の高い除湿機を設置しましょう。部屋の広さに合う除湿機を選ぶと良いでしょう。



② サーキュレーターを置いて通気性を上げる

換気しにくい部屋にはサーキュレーターの設置もおススメです。窓を開けるのも大事ですが部屋全体の空気を通すことがカビ対策に繋がります。扇風機でも構わないので、風通しをよくしましょう。

③ お風呂の換気扇は 24 時間まわす

もっとも湿気が発生しやすいお風呂場ですが、できれば 24 時間ずっと換気扇を回すようにしましょう。

電気代が気になるという方もいるかもしれませんが、お風呂の換気扇を 24 時間つけっぱなしにしているだけでも 1 ヶ月の電気代は 400 円程度です。(地域や換気扇の種類によって前後します)



カビ取り剤の値段や手間、家族の健康のことを考えると決して高くない値段だと思えます。

結露を防ぐ

「3-4. 窓・カーテン」の最後でもお伝えした通り、結露を防ぐことは大事です。今すぐできる具体的な対策としては

- ① 小まめに拭く
- ② 室内を除湿する
- ③ 結露防止断熱シートや結露防止スプレーを使用する

結露はカビの原因になるので、すぐに対策することが大事です。

家具の配置を工夫して通気よくする

家具が壁にピッタリとくっついてホコリや湿気がたまることも「カビ」の原因となります。家具と壁の間に少しスキマを開けるなどして、湿気がたまらないようにしましょう。



カビを根本までしっかり除去する

市販のカビ取り剤や漂白剤でカビを取る場合に気を付けて頂きたいのが「時間」です。

市販のカビ取り剤というのはそこまで強く作られていないため、時間をかけてカビを分解していかななくてはなりません。

薬剤を吹きかけたら、しっかりと時間を置くようにしてください。



お風呂の場合は、燻煙式のカビ取り剤を活用する方法もあります。定期的に行うことで、お風呂内で発生したカビを殺菌することができます。銀イオンで燻煙することにより、99.9%除菌することができます。メーカーにもよりますが2ヶ月に1回の燻煙がおすすめです。

第4章 業者に依頼する際の注意事項

4－1．カビ取りを検討されている方

ここまで個人でカビ取りする方法を紹介してきましたが、どうしても個人の力では難しい場合もあると思います。

その時は早めにカビ取り業者に問い合わせしてみてください。ひどくなってしまうと費用が高くなってしまいます。

そしてせっかくプロに依頼するのなら知識と技術のある業者に頼みたいと思います。

そこでカビ取り業者に依頼する際に注意する点として、チェック項目をご用意しました。

□質問に対して納得する回答が返ってくるか。

様々な視点から質問をして、的確で納得のいく答えが返ってくるか試してみるといいと思います。

□カビが発生した原因を説明できるか

カビが発生した箇所や種類は、何百・何千と現場を見ていると、9割以上の現場ではなぜ発生したのか、どの順番で拡散していったのかわかります。経験値の浅いカビ取り業者は、納得のいく発生原因を説明できないため、そういった業者は避けたほうがよいでしょう。



□機材がそろっているか

カビの培養する技術や菌数検査をするための機械、保水率を図る機械など状況を確認するための機械を持っていることが重要だと思っています。

中には、感覚で判断する人がいますが、それだけだとその日のコンディションに大きく左右されるため、精度の高い調査をするためには、機械を使った調査が必須となります。



□自社の強みを説明できるのか

業者の中には、市販のカビ取り剤を使って、カビ取り業者を名乗っているケースもあるため、カビの専門性をどのくらい高めているのか確認するといと思います。



因みに、ハーツクリーンの強みは以下の10個です。

- ・特許出願中技術のカビ取り工法を独自に開発
- ・カビ取り剤・防カビ剤など現場ごとに適切な液剤に微調整出来る
- ・通常のリフォームからリノベーションまで対応できる建築力
- ・カビ取り業者で唯一のガス滅菌庫を保有
- ・過去 4000 件以上の施工と 10000 件のデータベース化
- ・裁判資料まで作れるカビ発生原因を分析
- ・大学教授を技術顧問に据えて、毎日液剤・工法を改良
- ・各現場には数百現場のカビ取りを経験した責任者を必ず配置
- ・官公庁・財閥系企業から依頼が来る総合的な技術力
- ・とにかく誠実に丁寧に対応する社員教育に力を入れている

大事な家を守るためにも、是非信頼できる業者を選んでください。

4－2．リフォーム・リノベーションを検討されている方

- ・カビの範囲が広がってしまっている
- ・何度もカビが再発している
- ・古くなってきたし、家を綺麗にしたい

そのような悩みを抱えているようでしたら、カビ対策の専門でリフォームも手掛けている業者に依頼することをお勧めします。

そしてその両方を兼ね備えているのが、ハーツクリーンです。



ハーツクリーンの“REAIR（リエアー）”とは？

【コンセプト】

「空気をリノベする」

空気とは？

空気は呼吸をする以外にも、場の空気、雰囲気、心理面、情緒的なニュアンスも意味します。

「REAIR」は、空気をリノベすることで、深呼吸ができる空気のおいしい空間づくりや、そこにいる人が心理的に寛ぐことができる空間づくりに特化しています。

- ・専属スタッフ対応

カビ対策にも精通したリフォーム・リノベーション経験豊富な専属のスタッフが対応しています。

- ・高品質なリフォームを提供

現場対応件数・仕上がりの綺麗さ・施工スピード・お客様対応全てにおいて一定レベルをクリアした職人が施工しています。

- ・低価格を実現

REAIR は徹底的なパッケージ化により高品質であり低価格を実現しています。

REAIR のサービスとは？

専門の建築士・研究者が、カビが生えない居住空間・オフィス空間をリフォームの設計段階からアドバイスすることで、カビが生えない環境をご提供しています。

- ・フルリフォーム（リノベーション）

「美味しい空気が吸える空間」をコンセプトとしたフルリフォームです。カビが生えない間取り・素材を提案し湿度や CO2 濃度等環境改善までトータルで提案しています。

- ・各種リフォーム（防カビコーティング付き）

壁紙の交換・フローリング・カーペットの交換など簡単なリフォームから間取り変更・ユニットバス交換まで対応しています。



- ・結露・省エネ対策

結露を防止するリフォーム工事とそれに付随する省エネ対策を行っています。

4－3．引っ越しを検討されている方

- ・カビが酷くこれ以上は住めない
- ・再発してしまう
- ・リフォーム代が莫大になってしまう

このような場合には、健康被害が進行してしまう前に思い切って引っ越しをすることも 1 つの方法です。

当社スタッフはカビに特化した宅建士です。カビが発生しないエリア・場所・構造等 10000 件に上る過去のデータを分析し、カビが生えない家と一緒に探すことができます。

ちなみに引っ越し先を検討する際、以下のことに当てはまらない場所を選ぶのが最適です。

□埋立地ではないこと

以前は、沼地だったり畑だったりというような場所は避けるようにしてください。このような場所は水はけが悪く湿気が高い傾向にありますので、頑張ってカビが生えにくい環境を整えていたとしても、土地の問題でカビが発生しやすくなってしまいます。



□低層階で日当たりが悪い

過去の 10,000 件データから、地下～3 階ぐらいまでがカビやすい傾向にあるとわかっています。

低層階には湿気が溜まりやすくなってしまいますし、周りに高い建物があったり、部屋が北側に面していたりする場合は日当たりが悪くなってしまうので注意が必要です。日光にはカビを殺菌する効果がありますが、日が当たらないということは、カビが紫外線により除菌されず繁殖しやすい環境になっていると言えます。



□結露が発生しやすい

室外と室内とで寒暖差が激しい住宅は、窓や壁に結露が発生しやすくなります。結露は水分なので、小まめなお手入れや結露対策をしっかりと行っていないければカビの栄養素となってしまうので注意が必要です。



とはいえ、引っ越しというのは簡単にできるものではないですし、もし購入も検討しているようなら絶対に失敗はできません。
やはりお勧めなのはプロに相談することです。

ハーツクリーンでは、カビ対策を熟知したプロの宅建士が、売却・購入の無料相談を行っています。カビが生えにくい家探し～綺麗な空気・おしゃれで住みやすい家を提案するリノベーションまでワンストップで行うことができます。



さいごに

私がカビ取り専門の会社を創業したきっかけは、私の父がカビによる難病の肺炎になったことでした。

（創業後肺炎により亡くなっています）

父が病気になったときに引っ越すか家を除菌するか選ぶよう医師より言われ、自宅を除菌したのが一番初めのカビ取りでした。その際に大切にしていた服や本、私が子供の時から使っていた家具などもカビが残る危険がある為処分しました。

それまでは、全く気にしていなかったカビでしたが、大切な思い出、大切な人まで無くす経験をし、このような悩みを世の中から無くすためにカビ取り事業を立ち上げました。

2014年の創業から一步一步信頼を築いてきたことで、現在では医師の推薦で父と同じ病気の方から依頼がくるまでになりました。また、官公庁や大手企業でもカビで悩むところが多くご相談を頂き、高い評価を得ることが出来ています。

「カビ臭対策実績 1000 件以上ある臭いのスペシャリスト」「カビないリフォーム・リノベーションのスペシャリスト」「裁判資料作成多数のカビ発生原因調査のスペシャリスト」など弊社は、世界初の特許出願中のカビ取り工法や日本で唯一ガス滅菌車など技術面の強みも多くありますが、何よりも誠実・丁寧なカビ対策を行い、常に難しい問題に取り組んできたことで、経験もカビ取りに対する情熱も誰にも負けない技術者が当社には集まっています。

今まで培ってきた知識やノウハウをたくさんの方にお伝えしたいと思い、今回こちらを執筆しました。

この世の中から、カビで悩む人が一人でも減ることを願っています。

また、本書を読んで不明点やプロに相談したいと思われた方がいらっしゃいましたら、是非当社までご連絡ください。

参考文献：沖縄の寿命低下の原因はカビか．リフォーム産業新聞．1304号（2018年3月13日発行）．2面

比べる×調べる 室内の浮遊 カビ人が吸い込む量推察．産経新聞．2014年5月30日．

p.22

おそうじ本舗「エアコン掃除を自分でやる方法と家にある物で簡単に作れる掃除道具」
(<https://www.osoujihonpo.com/guide/aircon/121129-03> 閲覧日：2021年8月20日)

著者：ハーツリッチ株式会社カビペディア編集部

監修：日本建築防黴協会

協力：カビ取りマイスター株式会社